

# 短期集中日本語・日本文化学習コース（ウィンター3週間）実施

## 日本語教育センター通信

第15号

韓国の協定校（慶熙大学、韓南大学）から23名の大学生が来日し、日本語と日本文化を学びました。教室で日本語を学ぶだけでなく、日本語パートナーとの会話や、一緒に学外へ出かけて日本語を使ってみることで、日本語が少しずつ使えるようになりました。初日はひらがなもあまり書けなかった学生たちが、一生懸命学習し、コース終了時には日本語でスピーチもしました。日本で見つけたCOOLなものについてのスピーチで、パワーポイントも使った発表です。また、能楽部といけばな部、書道ボランティアの皆さんの協力のおかげで、日本の伝統文化も体験できました。さらにポップカルチャーや食文化の講義を韓国語で受講することで、日本文化への理解も深まりました。関学のフェイスブックにも本プログラムの写真が紹介されていますので、ぜひ見てみてください。



（プログラム受講者、日本語パートナー、通訳してくれた総合政策学部のイウンギョンさん（前列左））

### 受講生の声



バンテヒョンさん（慶熙大学）

日本に初めて来たとき、電車の乗り方も食べ物のことも何も知りませんでした。腰を据えて授業に専念することができました。授業は初級と中級に分かれています。発表は初級と中級レベルに入りますが、いろいろなことに挑戦することができました。発表が多かったです。それに、発表が多かったです。日本語のスピーキングが少し上達しました。プログラムの中で一番良かったことは、日本語のパートナーでした。パートナーとの活動で、日本語が下手なことがこわくなくなりました。そして、日本の文化についていろいろ教えてもらいました。日本食もおいしいです。このプログラムから日本語以外にもとても多くのことを教えてもらいました。

### 日本語パートナーの感想

国際学部  
田原 友紀子さん

私はこのプログラムに日本語パートナーとして参加し、3週間という短期間で、留学生達と共に過ごし、とても有意義な時間を送ることができました！このプログラムを通して、お互いの文化を知ることができ、日本の文化を見つめ直すことができました。

初めの頃はことばの問題で意思の疎通がうまく行かずもどかしさを感じましたが、プログラムが終わる頃には言葉が十分でなくても想いを伝えようという気持ちで心を通じ合わせる事ができたと感じます。私だけでなく留学生達も同じ想いであることを願います。日本と韓国の間には政治的



（プログラム参加者とグループ学習をする下村さん（右））

な問題も多いですが、これから社会人になっていく私たちが両国を繋ぐ橋になっていけたら良いなと思いました。



（初日、日本語パートナーとプログラムの参加者のマツチング（左が田原さん））

### 文学部

下村 あいさん

去年から楽しみにしていたこのプログラム。一生懸命日本語で自己紹介をする留学生を見たとき、日本がいい思い出を作った。ほしいなと思いました。みんなは朝から授業がありました。観光をしまし。一番の思い出は、私の20歳の誕生日をサプライズで祝ってくれたことです。これを機に慶熙大学と韓南大学の留学生同士も仲良くなれた気がします。この日本語パートナーでみんなと過ごせた時間は私の宝物です。

### 交換学生紹介

ランバーツ スコット エドワードさん  
（ミネソタ大学）



1月から日本人の子ども向けの塾で国語を勉強しています。5年前に長崎にいたときに、同じ塾の外国人用日本語コースで勉強していました。ここでは日本語コースがないので、小学生の国語コースに入りました。1週間に2回塾へ行って、国語のプリントをして、先生にチェックしてもらいます。周りは国語や算数を学ぶ小学生です。普段大学で勉強している外国人向けの文法用語と、国語の文法用語が違うのでちょっと大変ですが、日本人の子どもたちが学ぶ文法や語彙だけでなく、日本人の気持ちなども一緒に学ぶことができる点が気に入っています。

### 退職のご挨拶

日本語教育センター契約職員 広岡 孝恵

日本語教育センター立ち上げスタッフとして2010年に契約職員として着任しました。翌年2011年のセンター設置以来、外国人留学生対象日本語科目、日本語パートナーやボランティアに関する業務をおして、学生の皆さん、教職員の皆様方に変な世話になりました。本当にありがとうございました。

